



Series
医学部受験対談

受験生の親子が語る
医学部
合格体験

「昨今の厳しい医学部受験を乗り越えるためには、子どもが、自分はこの医師になりたいという目的意識をしっかりと持てるように、常日頃から親の思いを伝えることが大切で、そのことを親子で語り合う機会を幼い頃から頻繁に作るのだと思います。」と、父親から受け継いだ内田病院を大きく発展させ、慢性期医療と地域のまちづくりに尽力している医療法人大誠会 理事長の田中志子氏は語ります。今回の対談では、母親の田中志子氏とメデュカバスの田村校長にご本人を交えた鼎談形式で、田中妃那子さんの医学部受験を振り返って頂きました。

娘に親の思いをしっかりと伝え、常に語り合い続けることが、医学部受験を乗り越える大きな原動力となりました。

幼稚園の頃から医師になりたい
と言っていました。

妃那子さん 私は医学部を目指した動機とは、母親がやりがいを持って仕事をしている姿をいつも身近で見ているので、そんな医師の仕事にあこがれていたからです。

田中氏 病院と自宅が隣接していて、仕事と家庭の境目が無いような生活でしたので、子供達は医師の仕事の大変さも苦労も全て見て育ちました。

長女の妃那子は、物心がついた頃から下の弟妹の面倒を見てくれ、仕事で忙しい私を支えてくれました。そんな妃那子は幼いころからずっと医師になりたいと言っていました。

妃那子さん たぶん幼稚園の頃から、医師になりたいと言っていたと思います。

田中氏 本当に幼稚園の頃からずっと言っていましたね。それは一度も変わらなかったです。

田村氏 妃那子さんは、お母さまの仕事を身近に見ているので、医師の仕事は大変そうだなと思われたことはありませんでしたか。

妃那子さん 夜中とかに病院から呼ばれている姿を見ていたりしたので、たしかに医師の仕事は大変だと思っていました。

でも、それだけ責任のある、人のために役立つ尊い仕事なのだなとも思っていました。

私立医学部専門予備校という
選択肢

妃那子さん 現役時代から医学部受験を目指し、高校1年から地元の大手予備校に通っていました。

しかし最初から私立医学部を目指していた私には、そこでの授業が合っていない感がありました。何をどう勉強したら良いのか全く分からずに3年間が終わってしまいました。

メデュカバスに入学してみて、初めて医学部受験の勉強法を学んだ気がしました。

田中氏 医学部受験は情報戦ですね。私たちの頃は受験事情が全く違って

いました。
メデュカバスに入学してみて、私立医学部専門予備校の勉強法と情報量の違いに驚きました。

田村氏 当予備校での妃那子さんは、予習復習をしっかり行い、確認テストで優秀な成績を取って、毎週掲示される成績優秀者に載ることを目標に頑張っていましたし、間違えた問題の再テストも手抜きせずにきちんと行っていました。

1年間は大変辛かったと思いますが、合格できたのは、目標をしっかりと定め、毎日真面目に努力し続けた結果だと思っています。

私は頑張った努力は必ず報われると思っています。しっかりと目標を持って、コツコツ勉強する生徒さんの多くが医学部に合格しています。

田中氏 妃那子は元来が真面目な性格です。高校時代も自らのスケジュール管理で勉強に取り組んでいて、日曜日にも朝からきちんと塾に通ったりしていました。

大手予備校での受験勉強はそれなりに進んでいると思っていたのですが、時間をかけている割には勉強方法や点の取り方が学べていなかったのだと思います。メデュカバスでの1年間はそういうところがしっかりと身につけられたと思います。

独自の学力向上システム。 インプット・アウトプット方式授業

田村氏 私どものカリキュラムでインプット・アウトプットという授業があります。

これは、自分が判らなかつた重要な問題を講師から教えて貰い理解（インプット）し、次にその内容を少人数のグループの中でメンバーに分かり易く説明（アウトプット）するという、脳が活性化される学力向上システムです。

人に教えるということは、相手に分かり易く説明しないと伝わりません。人に教えることを前提に学習しますので、学んだ内容を簡潔にまとめて脳にインプットする習慣がついていきます。

インプットした内容を誰もが納得できるようにきちんとアウトプットできれば知識が定着している事の確認になります。

特に妃那子さんは、とても上手にこの授業をマスターされた生徒さんでした。妃那子さん 私は、勉強は好きでしたが、考えることが苦手でした。

この授業では、苦手な問題や十分に把握できていない問題の理解がとても深まりました。人に教えるということとは、とても効果的だと思います。

医学部に入ってから、人に教えると一人で勉強するよりも記憶の定着が深まることを実感しています。

田村氏 そのように言ってもらえることは私どもにとっても本当に嬉しいことです。

生徒さんは、最初の頃は不安なようですが、次第にこの授業が面白くなっていくようです。

中には時間を延長しても行いたいというグループも出てきます。

さらには妃那子さんのように、大学に入ってからこの授業の経験が役に立っていると話される人が多くいます。

私どものカリキュラムが大学に入ってから活きているということ、嬉しく誇りにも思います。

ただ覚えるのではなく、知識を活かすことで脳が活性化する。

妃那子さん 私にとっては初めて経験する授業なので、当初はとても緊張しました。

しかも教える相手の中には成績上位の人もいるので、最初の頃は予習をしっかりと行っていました。それでも後半になると、自信も付いてきて自分の考えを上手に話せるようになりました。

また受験が近づいてくると、皆で問題の解答を検討したりするようにもなり、他の人の考えや意見を聞き合い、グループ全員で解答を導き出すことで、いろいろ気付くことができました。私にとってはそれがとても勉強になりました。

田村氏 実はそれが脳に刺激を与えるということでした。

大切なことは単に覚えるということではなく、知識を活かすということなのです。

田中氏 そこが、一方的に教えてもらっているのとは大きく違うところだと思います。

妃那子は毎日の連絡の中で、他の人の考えや意見で気づいた事を、度々話してくれました。

一人で勉強している時には気づけなかつた考え方や勉強の段取りを、友達から学べる事が多くあって、それが大きな刺激になっていたと思います。

単に仲が良い受験生仲間という関係では得られないことだと思いますし、実はすごく重要なことでもあったと思います。

最近、医学部教育もインストラクショナルデザイン（教育設計）に則ってカリキュラムが組まれているのですが、そこでも生徒同士での教え合いやグループ学習の授業が増えているようです。



田村 和香氏
メデュカバス 校長 英語講師

東京女子大学文理学部英米文学科卒、元両国予備校講師
受験予備校の講師歴24年間のうち14年間を両国予備校の講師として、偏差値50前後で入学した受験生を、それぞれの志望大学に多数合格させてきた。受験生をより良き方向へと導くことを一生の仕事として、受験指導に情熱を注いでいる。



田中 志子(たなか ゆきこ)氏
医療法人大誠会 理事長
 社会福祉法人久仁会 理事長、
 群馬県認知症疾患医療センター 内田病院 センター長
 医学博士、日本内科学会総合内科専門医、日本老年医学会老年
 病専門医、日本認知症学会認知症専門医・指導医、認知症サ
 ポート医、他



田中 妃那子(たなか ひなこ)さん
 2015年 群馬県立高崎女子高校卒業
 2016年 帝京大学医学部合格 受験勉強期間・・・1年間

コミュニケーション能力も養う インプットアウトプット授業

田村氏 この授業でのもう一つの狙いとしてコミュニケーション力の育成があります。自分の考えをしっかりとまとめることで知識の深化と共に脳の活性化が図れ、相手に理解してもらえようように丁寧に説明することでコミュニケーション能力が養われます。

田中先生は、大学でも講義をされていますが、医学生へのコミュニケーション力については如何ですか？

田中氏 実は7月に、妃那子の大学で授業を行うのですが、今とてもプレッシャーを感じています(笑)。

私どもでは毎年医学生の病院実習を受け入れています。コミュニケーション力は学年に関わらず非常に重要と考えています。医師に求められる姿勢で大切なのは、患者さんの辛さや苦しさを

を、自分の痛みとして同苦できるか、ということだと思います。そうでないと一番辛い思いをするのは患者さんご本人だからです。

多職種と一緒にいる今の医療にとって、一番医学知識を持っている医師がチーム医療をリードしていくためにも、コミュニケーション力はとても大切です。

そこには多職種の人への思いやりや配慮を持って育てていくということも含まれます。メデュカパスの授業ではコミュニケーション力も鍛えてもらえたと感じています。

貴重な人生経験だった寮生活

田村氏 予備校では地方出身の生徒さんは全員寮に入ってもらっています。都内の生徒さんで入寮されている人もいます。

妃那子さん 私は寮に入って良かったと思っています。寮生活での一人暮らしは、実家にいる時のように親に甘え

られないので、おのずと規則正しい生活習慣が身に付きました。

田中氏 親としては、娘を初めて一人で東京に、しかも受験勉強のために送り出すわけですから住環境にも、とても気を使いました。

女の子ですから、繁華街の近くとか、逆にあまりにも静かな住宅街でも不安です。その点、メデュカパスは教室と寮の距離がとても近いので、勉強で帰宅が夜遅くなっても安心できました。

それに体調が悪い時など職員の方が寮まで様子を見て届けてくれたり、時には薬を買って届けてくれたりと、きめ細かに面倒を見てもらえたので、親として本当に感謝しています。

また、成績だけでなく生活状態もこまめに定期連絡を頂いたので、この点も安心できました。

妃那子さん いろいろな意味で貴重な1年間を経験しました。受験期は結構

辛い思いもりましたが、メデュカパスの友達がいことが大きな支えと励みになりました。浪人して良かったと思っています(笑)。

田中氏 高校生までは親の庇護の下に居たわけですが、一人暮らしの中で身の回りのことを全て自分で行い、始めて出会った他の仲間とも、家族のように本当に密度の濃い付き合いをしていく中で、お互いに頑張ろうと励まし合ったりしたことは、それまでの高校生の時には経験しなかったことだと思います。

そばで見ていると、1年間ですごく大人になったなと感じました。この間は本当に多くのことがあって、彼女もいろいろなことを感じた1年間だったと思います。

自ら医師になりたいと、強く願える環境を作ることが大切です。

田村氏 田中先生からは、「子ども自身

が、医師という仕事の素晴らしさ、尊
さを感じて、自ら医師になりたいと、
強く願える環境作りが大切です。」とお
聞きしました。

田中氏 子どもが、自分はこの医師
になりたいという目的意識をしっかりと
と持てるように、常日頃から親の思い
を伝えることが大切だと思います。

こんな医者になりたいという本人の
イメージができるように、親が長期的
に育てていってあげないと、医師にな
るまでにくつも越さなければならな
いハードルの辛さに耐えることが難し
いと思います。

それになんといつても、親自身が医
師の仕事が好きでないと、同じ思いを
子供には求めることはできないと思
います。

子供たちが幼いころから折に触れて、
こんな医師になって欲しいという私の
思いを話してきました。しかし決して
強制しようとは思いませんでした。

私は、故郷が大好きで、大好きな慢
性期医療に毎日取り組んでいます。

父親から受け継いで今まで取り組ん
できた地元地域医療に対する思いや、
郷土愛、子供達には将来は故郷に帰っ
てきてほしいという思いも、幼いころ
から伝えてきました。そのことを妃那
子は十分に理解してくれています。

大切なことは、こんな医師になりた
いという目標であって、そのことを親
子で語り合う機会を、幼い頃から頻繁
に作るのだと思います。医学部に入
ることはそのための過程にすぎません。

妃那子さん 母を見ていると、毎日よ

くそんなに元気でいられるなと思いま
す(笑)。

忙しいはずなのにとってもパワフルに
楽しそうに仕事をしています。やりが
いがあるからなのだろうなと思います。
私もそんな医師になりたいと思っ
ています。

田中氏 親が医師としての自分の仕事
に誇りとやりがいを持っていないと、
世俗的な理由で医学部受験を子どもに
勧めても、今の厳しい医学部受験を乗
り越えることはできないでしょう。

実習に来る医学生でも、医師として
の目的や目標を明確に持っている人は
実習に臨む姿勢も勉強する姿勢も積極
的で違います。

その意識がないと今の医学部の勉強
にはついていけないと思います。

母のような医師になりたい という目標が、 私の大きな原動力です。

妃那子さん 何から何まで両親には本
当に感謝しています。

私には、母のような医師になりたいと
いう目標が大きな原動力になりました。

それは医学部に入った今でも同じで
す。その思いがないと大学の勉強も続
けられないと感じています。

今も日々勉強している母の姿を見て
いると、医師になると決めた時から一
生が勉強の連続なのだと思います。

最近はその母と医学について、少
しではありますが話せることが嬉しく
思っています。

田中氏 私にとっても嬉しいことです。

むしろ最新の医学情報を私に教えて
くれるくらいしっかりと勉強してほし
いと言っています(笑)。

医師になりたいという 明確な目標と強い意志、絶対に 合格できるという自信が大切。

妃那子さん 受験勉強の期間は、辛い
ことや苦しいこと、疑問に思うことも
あるでしょうが、自分が一生懸命頑張
った苦労は絶対に報われると思います。
私がそうでした。

田村氏 お二人がお話されたように、
自分は絶対に医師になりたいという強
い気持ち。これが大事だと思います。

さらに田中先生がおっしゃられている
ように、具体的にどのような医師になり
たいのかという明確な目標も大切です。

加えて予備校として受験生にお伝え
したいことは、自分は合格できるとい
う強い意志と自信を持つてほしいとい
うことです。

絶対に合格できるという強い気持ち
で受験勉強に臨めば必ず合格できます。

田中氏 一年間親身になって妃那子の
面倒を見て頂き、田村先生には本当に
感謝しています。今でも市ヶ谷駅を通
るといろいろなことが思い出されます。

私にとっては、メデュカパスと寮が
あったこの市ヶ谷は特別な場所になっ
ています。

田村氏 久しぶりに妃那子さんとお会
いできてとても嬉しく、あの頃を思い
出して、つい感極まってしまいました。
田中先生、妃那子さん、本日はあり
がとうございました。

両国予備校の伝統を受け継ぐ、全国で唯一の予備校

 MeducaPass

私立医学部受験予備校メデュカパス

お問い合わせ

TEL:03-5229-7088

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-23-8 第2三幸ビル
FAX : 03-5229-7089 <http://www.meduca-pass.org/>

医療法人大誠会 内田病院

〒378-0005 群馬県沼田市久屋原町345-1

TEL.0278-23-1231

<http://taiseikai-group.com/>

診療科目／内科・老年内科・小児科・肛門外科・
外科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・
皮膚科・リハビリテーション科・麻酔科
入院施設／全99床